Newsletter　え～ごがく No.65　日本英語学会

2016年８月30日発行

今回の紙面から（ページと内容）

１．第34回大会のお知らせ
３．大会運営委員会より
　終身会員規定の施行について
　理事会より
４．編集委員会より
５．広報委員会より
６．学会賞委員会より
　日本英語学会2015年度会計報告
７．日本英語学会2016年度予算計画
８．言語系学会連合について
　事務局より

## 第34回大会のお知らせ

日時：2016年11月12日（土）～13日（日）
場所：金沢大学角間キャンパス
　（〒920-1192 金沢市角間町）

日本英語学会第34回大会は、大会運営委員会と開催校のご協力とご尽力により、着々と準備が進められています。今大会のスケジュールは以下の通りです。シンポジウムは第１日目の午後と第２日目の午後に予定しております。

11月12日（土）
　９:30～11:45：ワークショップ
　12:00～12:50：総会
　13:00～14:55：研究発表
　15:15～18:00：公開特別シンポジウム
　　／シンポジウム
　18:20～19:50：懇親会
11月13日（日）
　９:30～12:05：研究発表
　13:05～15:50：シンポジウム

今年度は、４つのワークショップ（うち２つはスチューデント・ワークショップ）、39の研究発表と６つのシンポジウムが予定されています。シンポジウムの内容は以下の通りです。（［　］内は司会者、（　）内は講師と題目を示します。）

**A.「現代メディアの談話分析：災害をどう伝えるか」（公開）**［佐藤彰］（佐藤彰「災害報道の社会言語学的分析：英米メディアが見た東日本大震災」、秦かおり「『記憶』としての震災：日英マス・メディアによる再文脈化の対照研究」、古川敏明「『思い出す』という行為：国会事故調査委員会における記憶の検証」、岡本能里子「震災報道を通して伝えられる日本:『冷静』で『秩序を守る』日本人」）

**B.「自然談話における思考動詞の使用について」**［遠藤智子］（甲田直美「日本語会話における思考動詞」、野村佑子「日英語ナラティブにおける思考動詞の出現位置」、遠藤智子「英語および中国語の会話における思考動詞の内容節について」、佐藤詩恵「*I think*のパーティクル化について：位置による機能の違いを探る」）

**C.「移動をめぐる諸問題」**［高野祐二］（高野祐二「移動とラベル付けの新たな可能性」、岡俊房「一致と転送：EPP、ECPおよびCEDに対する非ラベル付けアプローチ」、浦啓之「日英語における非顕在的演算子移動の分配／関数解釈と局所性の分散的消滅」、ディスカッサントとして多田浩章）

**D.“Exploring the Notion of ‘Perfection’ in Language Design”**[Hisatsugu Kitahara]（T. Daniel Seely “Perfection is Simple,” Miki Obata “Eliminating C-deletion in the Syntax: Structure Building by Merge,” Masanobu

Sorida “Toward a Restricted Theory of Formal Features”）

**E.“Polarity-Sensitive Items: Their Forms, Meanings, and Functions”** [Osamu Sawada]（Hideki Kishimoto “Structural Aspects of NPI Licensing in Japanese,” Ikumi Imani “Semantic and Pragmatic Analysis of *Wh-ka* in Japanese,” Kimiko Nakanishi “Scalar Particles and Polarity Sensitivity,” Osamu Sawada “Expressives and Polarity Sensitivity”）

**F.「意味・機能の変容の諸相」**［岡田禎之］（岡田禎之「身体部位名詞の意味拡張と連語における意味分布」、家入葉子「英語の否定構文とJespersenのサイクル」、山口治彦「引用の３つのかたち―メタ言語の機能的類型―」）

公開特別シンポジウム「現代メディアの談話分析：災害をどう伝えるか」については、非会員でも無料で参加できます。

本大会の詳しい内容につきましては、同封の「大会資料・プログラム」および９月以降日本英語学会ホームページに掲載されます大会発表要旨とワークショッププログラム（ともにダウンロード可能）をご覧ください。

**◇ 大会当日の受付について**

大会当日は受付にて大会参加費（2,000円）をお支払いいただきますと、*Conference Handbook* と名札をお渡しします。名札をつけていない方は入室できませんのでご注意ください（公開特別シンポジウムのみ参加費と名札なしで入室できます）。また、11月12日（土）の受付は11時30分より始めますのでお早めにお出かけください。

**◇ 総会について**

12日（土）12:00より12:50まで総会を開催します。総会では、会長の挨拶、開催校代表のご挨拶の後、大会運営委員会、編集委員会、広報委員会、学会賞委員会、事務局からの報告などがあります。会員の皆様の積極的な参加をお待ちしております。

**◇ 懇親会について**

12日（土）18:20より19:50まで、学内の大学会館において懇親会（会費4,000円（学生3,000円））を催します。是非ご参加ください。

**◇ 大会（SF）優秀発表賞について**

昨年11月開催の第33回大会より、大会（SF）優秀発表賞の審査が行われています。これは事前に審査希望を申請した修士課程修了後10年以内の研究者による発表を審査して表彰するものです。大会終了後に審査結果をまとめ、ホームページおよびニューズレターで受賞者を発表します。

**◇ 証明書等の発行について**

全国大会出席のため、所属機関に提出する証明書等が必要な方は、返信用封筒を同封のうえ、下記までご請求ください。書式が定まっている場合には証明印以外の部分を記入したものをお送りいただければ幸いです。

〒113-0023 東京都文京区向丘1-5-2　開拓社内
日本英語学会事務局

**◇ 学内食堂・売店の利用について**

12日（土）は、学内にある大学会館の食堂・売店をご利用いただけます。また、13日（日）は、食堂をご利用いただけます（売店の営業はありません）。なお、大学周辺にレストランやコンビニはありません（自動販売機は、学会会場にあります）。

**◇ バスの増便について**

学会期間中は、金沢駅発、香林坊経由、金沢大学行きの臨時バスを運行しますので、問題なくバスをご利用いただけます。運行時間の詳細は、学会プログラムをご参照ください。

**◇ 宿泊先の紹介について**

今回の大会のため、11月11日（金）と12日（土）の宿泊先を日本旅行金沢支店よりご紹介していま

す。学会ホームページの新着情報にある「予約サイト」のリンクから英語学会用の予約サイトにお進みください。予約の際には、ニューズレター郵送時の宛名ラベルに記載してある会員番号をご用意ください。詳しくは上記「予約サイト」をご覧ください。

## 大会運営委員会より

◇ **第34回大会個人研究発表への応募の審査結果**

個人研究発表には61編の応募があり、審査の結果、40編の研究発表が採択されました。その後、発表辞退が１件あり、39件の研究発表が行われることになりました。

◇ **国際春季フォーラム優秀発表賞審査結果報告**

第33回大会より、優秀な若手の研究発表者を顕彰する制度として、大会（国際春季フォーラム）優秀発表賞が創設されました。第９回国際春季フォーラムでは、応募資格があり発表賞審査を希望する応募者を対象に、査読段階の点数による一次審査と、フォーラム当日の発表に対する二次審査が行われました。審査の結果が６月に開催された大会運営委員会で審議され、松田麻子氏の研究発表（“Shifted Indexicals in Partial Control”）に国際春季フォーラム優秀発表賞（佳作）を授与することが決定しました。結果は学会ホームページに公表されています。

◇ **第10回国際春季フォーラムのご案内**

第10回国際春季フォーラムは次の通り開催される予定です。

日時：2017年４月22日（土）・23日（日）

場所：明治学院大学（白金キャンパス）

（〒108-8636 東京都港区白金台1-2-37）

研究発表とワークショップの募集につきましては、同封の案内をご覧ください。

## 終身会員規定の施行について

６月19日に開催された第72回理事会で、終身会員規定が審議の結果、承認されました。来年度より、終身会員の登録申し込みを受け付けます。

終身会員は、満56歳になった年度から10年間、会費を全納した会員を有資格者とし、所定の申請書を提出し、終身会費３万円を支払うことで認められます。終身会員の方には、*EL*、*JELS*、ニューズレターなどが送付されるほか、秋の大会および国際春季フォーラムの懇親会に無料で参加していただけます。

また、すでに現在までに上記の資格を満たしている会員がおられることをふまえ、当面の経過措置として、満56歳から12年以上の会費を納めている場合には終身会員費を減額または免除します。

終身会員に関する規定等については、学会ホームページ上にある新着情報、またはトップページの「入会申し込み」から「終身会員登録手続きについて」という項目をご覧ください。

なお、来年度の登録申し込みは、４月１日から４月25日の間に受け付けます。

## 理事会より

○ **訃報**

本学会の初代会長であり、顧問をおつとめになられました安井稔先生（東北大学名誉教授）が、2016年５月16日にご逝去されました。学会設立当初からの長きにわたるご貢献に感謝しますとともに、ご冥福をお祈りします。なお、安井先生のobituaryが*EL*34巻１号に掲載される予定です。

○ **会計**

2015年度収支決算書および2016年度予算計画書が、６月19日開催の第72回理事会にて審議の結果、承認されました。

収支決算および予算計画の内容については、このニューズレターの５ページから７ページをご覧ください。

○ **役員の異動**

顧問退任

太田朗氏（平成27年12月31日付）、安井稔氏（平成28年５月16日付）

理事退任（平成28年３月31日付）

今西典子氏（東京大学）、内田聖二氏（奈良大学）、大庭幸男氏（関西外国語大学）、岡田伸夫氏（関西外国語大学）、金子義明氏（東北大学）、高見健一氏（学習院大学）、米山三明氏（成蹊大学）

理事就任（平成28年４月１日付）

杉岡洋子氏（慶應義塾大学）、西岡宣明氏（九州大学）、長谷川信子氏（神田外語大学）、廣瀬幸生氏（筑波大学）、福井直樹氏（上智大学）、丸田忠雄氏（東京理科大学）、鷲尾龍一氏（学習院大学）

監事退任（平成28年３月31日付）

岡崎正男氏（茨城大学）、八木孝夫氏（東京学芸大学）

監事就任（平成28年４月１日付）

岡田禎之氏（大阪大学）、田中智之氏（名古屋大学）

評議員退任（平成28年３月31日付）

内田聖二氏（奈良大学）、大庭幸男氏（関西外国語大学）、岡田伸夫氏（関西外国語大学）、松下知紀氏(専修大学)、米山三明氏(成蹊大学)

評議員就任（平成28年４月１日付）

小谷克則氏（関西外国語大学）、田辺春美氏（成蹊大学）、鍋島弘治朗氏（関西大学）、平井大輔氏（近畿大学）、本間猛氏（首都大学東京）

大会運営委員長退任（平成27年12月14日付）

高橋英光氏（北海道大学）

大会運営委員長就任（平成27年12月15日付）

小川芳樹氏（東北大学）

学会賞委員長退任（平成28年３月31日付）

伊藤たかね氏（東京大学）

学会賞委員長就任（平成28年４月１日付）

長谷川信子氏（神田外語大学）

編集委員退任（平成28年３月22日付）

三間英樹氏（神戸市外国語大学）

大会運営委員会退任（平成28年６月30日付）

鈴木敬了氏（大東文化大学）

大会運営委員会就任（平成28年７月１日付）

村上まどか氏（実践女子大学）

ご退任の皆さま、これまで日本英語学会の運営にご尽力いただきましたことに対し、厚くお礼申し上げます。

○ **第35回大会（2017年度）の開催校**

来年度の大会は、2017年11月18日（土）、19日（日）に東北大学にて開催される予定です。詳細については、2017年２月末に発行予定の『え～ごがく』66号にてお知らせいたします。

## 編集委員会より

◇ **2015年度*EL*論文賞の決定について**

*EL* 32巻に掲載されたArticle ３編（Phonetics/Phonology 1，Syntax 2）、Brief Article ３編（Syntax 3）合わせて６編の中から、１次審査通過論文として選定された、Article ２編（Syntax 2）、Brief Article １編（Syntax 1）について、新旧編集委員長を含めた６名の最終選考委員により最終審査が行われ、その結果をもとに最終選考委員会として以下のArticle １編を受賞論文として決定しました。

戸澤隆広：“On Labeling in Free Relative Clauses in English”（分野: Syntax）

◇ ***English Linguistics* 第33巻１号（2016年春号）の刊行について**

*EL* 33巻１号(春号)が刊行されました。Article ２編、Brief Article １編、Notes and Discussion ３編、Review ６編が掲載されています。

◇ ***English Linguistics* 第33巻２号（2016年秋号）の応募論文について**

2016年４月１日締め切りで投稿された一般論文の総数は16編で、投稿部門と投稿分野の内訳は、Article ９編（Phonology/Historical Linguistics 1, Syntax 6, Syntax/Historical Linguistics 1, Pragmatics 1）、Brief Article ４編（Syntax 2, Syntax/Historical Linguistics 1, Cognitive Linguistics 1）、Notes and Discussion ３編（Syntax 1, Cognitive Linguistics 2）、Review Article １編でした。また、「４ヶ月書き直し」として再投稿された論文は、Article 4編（Syntax 3, Phonology 1）でした。

以下の表は、慫慂によるReview ８編およびReview Article 1編と、33巻１号に応募されて「４ヶ月書き直し」と判定され、33巻２号に再投稿された論文 ４編も含めた、33巻２号の審査状況です（2016年７月31日現在）。

| | 応募数 | 採用 | 不採用 | 取り下げ | 審査中 |
|---|---|---|---|---|---|
| AR | 9 | 4 | 2 | 0 | 3 |
| BA | 4 | 0 | 3 | 0 | 1 |
| N&D | 3 | 1 | 2 | 0 | 0 |
| RA | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| Review | 8 | 8 | 0 | 1 | 0 |
| 4ヶ月書き直し | | | | | |
| AR | 4 | 3 | 0 | 0 | 1 |
| 合計 | 29 | 16 | 7 | 1 | 6 |

なお、「特別企画2015」の事前審査（2015年12月15日締め切り）には応募がありませんでした。

◇ ***English Linguistics* 第34巻１号（2017年夏号）への投稿について**

*English Linguistics*第34巻１号の応募締め切りは、2016年９月20日（水）24時（必着）です。応募される方は、学会ホームページに記載されている投稿規定および書式に関する注意事項を通読され、最新版の規定に則って作成し、ネイティブ・チェックを受けた原稿をご投稿くださいますよう、お願い申し上げます。

なお、昨年来お知らせしています*EL*編集日程の変更により、次号第34巻１号の刊行時期は、従来より３ヶ月遅い９月となりますので、ご承知おきください。

◇ **「特別企画2016：特集テーマによる一括投稿論文」の公募について**

編集委員会は、*EL* 34巻の編集に向けて、本年度も「特別企画2016：特集テーマによる一括投稿論文」の公募を行うことを決定しました。事前申し込みの締め切りは、2016年12月15日です。公募案内が学会ホームページに掲載されていますので、ご覧の上、ご応募ください。

## 広報委員会より

◇ ***EL*アーカイブ化と公開に向けた作業について**

広報委員会では、J-STAGE 3（科学技術情報発信・流通総合システム）での *EL* アーカイブ化と公開作業に取り組んでいます。アップロードに伴う校正については、開拓社編集部と広報委員会との間で結ばれた申し合わせ手順に従って、執筆者の責任で校正作業が進められ、執筆者からの校正報告に基づきデータ修正をした後、委員会の確認を経て公開しています。*EL*第29巻２号まで公開されており、現在、*EL*第30巻１号の公開に向けての作業の最終段階です。

## 学会賞委員会より

**◇ 新人賞と学会賞（論文）の応募状況**

2016年度新人賞と学会賞（論文）の応募は５月31日に締め切られました。有資格者である2015年度 *EL* 論文賞受賞者から、新人賞１件の応募がありました。分野は極小主義に関わる論考です。現在、選考委員会において厳正な審査が行われており、最終選考結果は本年11月に開催される日本英語学会総会で報告されます。学会賞（論文）への応募はありませんでした。

**◇ 学会賞（著書）の応募状況**

５月31日に締め切られた2016年度学会賞（著書）には２件の応募がありました。会員としての会費納入条件を満たしており、また応募著書は２年以内に刊行されていることが事務局により確認されましたので、応募申請は２件とも受理されました。審査領域は、２件とも統語論・意味論です。学会賞（著書）に関しては、１次審査と最終選考の２段階選考で、現在、厳正に審査が行われており、最終選考結果は本年11月に開催される日本英語学会総会で報告されます。

## 日本英語学会2015年度会計報告

2015年度収支決算書（2016年４月１日現在）が監事（岡田禎之氏、田中智之氏）による監査を経て、６月19日開催の第72回理事会で承認されました。

## 言語系学会連合について

今年度は、日本言語学会が本連合の運営を担当することになりました。運営委員、監査委員、事務局は以下の通りです。

【運営委員】（任期は2016年４月より１年間）
窪薗晴夫（委員長、日本言語学会）、野田尚史（副委員長、日本語学会）、山内博之（日本語教育学会）、大室剛志（日本英語学会）、カイト由利子（全国語学教育学会）

【監査委員】
三宅和子（日本語教育学会）（学会として2015年４月より２年間担当）、岡田禎之（日本英語学会）（学会として2016年４月より２年間担当）

【事務局】（任期は2016年４月より１年間）
小林正人（事務局、会計担当、日本言語学会）
金城由美子（国立国語研究所）

５月29日に運営委員会が東京大学で開催され、昨年度の活動と決算案、今年度の活動計画案と予算案等について審議が行われ、すべて承認されました。

文系学部の廃止・転換論への対応として、言語系学会連合は、日本学術会議幹事会声明「これからの大学のあり方 ― 特に教員養成・人文社会科学系のあり方 ― に関する議論に寄せて」を全面的に支持する旨の文言をホームページ上に表明することとしました。

今年度の公開特別シンポジウムは、2017年１月21日（土）に開催されることになりました。題目、司会・講師、日時と開催場所は以下の通りです。

題目：「オノマトペの魅力（仮題）」
司会：窪薗晴夫氏（国立国語研究所）、講師：今井むつみ氏（慶應義塾大学環境情報学部･教授）、岩崎典子氏（ロンドン大学（SOAS）言語学科・Senior Lecturer）、秋田喜美氏（名古屋大学国際言語文化研究科・准教授）、小野正弘（明治大学文学部・教授）、坂本真樹（電気通信大学情報理工学研究科・教授）

日時：2017年１月21日（土）午後
会場：学術情報センター（一橋講堂）
詳細は、言語系学会連合ホームページ
http://www.nacos.com/gengoren/index.html
をご覧ください。

## 事務局より

**○ 会員数について**

2016年５月26日現在の会員総数は、1,361名です。内訳は、通常会員 1,191名（海外会員含む）、維持会員 111名、学生会員 34名、顧問 ８名、賛助会員 17社です。

**○ 会費納入のお願い**

会費未納の方は、学会支援機構から送られました振込用紙で納入してくださいますようお願いいたします。**２年間滞納されますと、会員規定第８条第４項により、自動的に退会扱いになりますので、ご注意ください。**

**○ 学生会員登録について**

学生会員登録には毎年継続手続きが必要です。指定された期日までに継続手続きをしない場合には、通常会員として会費請求がなされますので、ご注意ください。

今年度の学生会員登録（継続会員）手続きは、2016年４月25日（土）に締め切りました。

なお、学生会員として新規入会される方につきましては、年度内のいつご入会いただいても学生会員として登録させていただきます。手続きの方法については、日本英語学会ホームページをご覧ください。

**○ 日本英語学会からの各種お知らせについて**

ホームページにあります研究発表応募規定、*EL*投稿規定、学会賞・新人賞の応募規程等は最新の情報が掲載されています。発表応募、投稿等にあたっては、これらの最新の規定をご確認いた

だくようお願いいたします。

○ ***EL*、*JELS*への論文投稿に関するお願い**

*EL*、*JELS*に論文を投稿される際には、日本英語学会ホームページに掲載されております「*English Linguistics* 投稿規定」「*JELS*投稿規定」をよくお読みいただき、規定を遵守したうえで投稿されるようお願いいたします。

*EL*に関して、編集委員会あるいは開拓社宛に投稿・通知する場合には、メールの件名およびメール本文には「*English Linguistics* 投稿規定」ページ末尾の「投稿論文の*EL*掲載までの手順案内」の表で指定されている情報を必ず明記ください。開拓社から送られる自動応答の着信確認用の受領メールに返信する形で、連絡メールを送信しないでください。編集委員会あるいは開拓社宛に投稿・通知する場合には必ず指定されている宛先のアドレスに送信してください。

*JELS*や所属機関のworking papers等に掲載された研究（の一部）を発展させてELに投稿する場合には、論文審査が公平で厳正に行えるよう、関連する投稿者自身のこれまでの研究論文の情報は必ず記載してください。なお、相互に匿名による審査体制であることに留意し、本文等でそれらに言及するときには、３人称表現をご使用ください。

○ ***EL*掲載論文の再録やレポジトリーへの登録に関するお願い**

*EL*に掲載された論文の著作権は日本英語学会にあります。そのため、*EL*に掲載された論文を他のジャーナルや著書に再録する場合には、本学会の許可が必要です。再録をご希望の場合には、日本英語学会事務局宛てにお知らせください。

また、最近、各大学で「学術情報レポジトリー」や「電子アーカイブ」の整備が急速になされつつあり、*EL*に掲載された論文をそれに登録したいとのご希望が寄せられています。日本英語学会では、発行後２年以上経過した論文の登録をお認めしています。この場合も日本英語学会事務局宛てにお知らせください。

*EL*論文の再録やレポジトリー、アーカイブへの登録をご希望の場合の連絡先のメールアドレスは、以下のものです。

メールアドレス：elsj-info@kaitakusha.co.jp

○ ***JELS*掲載論文の再録・登録に関するお願い**

*JELS*掲載論文についても、再録、および学術レポジトリーや電子アーカイブへの登録や個人のウェブサイトでの掲載の場合には、*EL*掲載の論文と同様に、事前に事務局までＥメールでお申し出ください。

*JELS*掲載論文については、発行後１年を経過したものについては、申し出があれば再録や学術レポジトリーなどへの掲載をお認めしています。

連絡先のメールアドレスは以下のものです。

メールアドレス：elsj-info@kaitakusha.co.jp

○ ***EL*公費購入のお願い**

ご所属の大学図書館や研究室で *EL*を購入されていない場合には、ぜひ購入の手続きをしていただきたく存じます。*EL*がより多くの研究者に知られるだけでなく、本会の運営にも益するところがありますので、よろしくお願いいたします。

○ **電子版投稿・審査体制に関連するお願い**

研究発表応募、*EL*への投稿、および学会賞・新人賞への応募の電子化に伴い、学会から会員の方々に電子メールで連絡することが通常の状態になっています。つきましては、メールアドレスや住所等の連絡先、及び所属に変更が生じた場合には、速やかに学会支援機構・日本英語学会会員管理担当（elsjkaiin@asas.or.jp）にご連絡いただき、電子版投稿・審査体制の下での学会運営にご協力いただきますようお願いいたします。

連絡方法については、学会ホームページをご覧ください。

なお、事務局あるいは各委員会からメールで連絡を差し上げた際の返信につきましては、通常１週間の余裕をみてお願いしておりますので、その期間内にご返信をいただけますようお願いいたします。万一、返信の未着あるいは遅着にて、行き違いが生じました場合には、ご容赦お願い申し上げます。

○ **外部査読者登録（更新）のお願い**

「*English Linguistics* 外部査読者登録のお願い（2016-2017）」を事務局から送信いたします。今年の８月下旬から９月上旬にかけても、登録のお願いを送信する予定です。外部査読者登録制度への会員の皆様のさらなるご支援をお願いいたします。

○ **「親と子の部屋」について**

今年も大会会場に「親と子の部屋」という保育室を設けます。専門の保育士が待機しておりますので、安心してご利用いただけます。利用ご希望の方は同封の「『親と子の部屋』のご利用について」をご覧のうえ、事務局までご連絡ください。

○ **事務局員の交代**

退任

大会運営委員会・評議員会書記
本田隆裕（神戸女子大学）
（平成28年３月31日付）
国際春季フォーラム・財務担当書記
吉本真由美（実践女子大学）
（平成28年４月30日付）

就任

大会運営委員会・評議員会書記
森英樹（福井県立大学）
（平成28年４月１日付）
国際春季フォーラム・財務担当書記
初谷智子（姫路獨協大学）
（平成28年５月１日付）

## 編集後記

「え～ごがく」第65号をお届けします。５月16日に、本学会の初代会長を昭和58年から昭和63年までお務めになった安井稔先生がご逝去されました。日本英語学会のみならず、英語学という分野そのものの発展に深く関わられた安井先生のご功績に思いを馳せつつ、心よりご冥福をお祈りいたします。

さて、34回目となる今年の秋の大会は、北陸新幹線の開通で東京方面からのアクセスも便利になった金沢市で初めて開催されます。大会を盛会に終えることができるよう、一丸となって準備を進めています。紅葉の見頃も近い秋の金沢に、ぜひ多数の皆さまにお集まりいただきますよう、ご協力お願いいたします。

（D.U）

2016年８月30日発行
編集・発行　日本英語学会
代表者　大庭　幸男
発行所　日本英語学会
http://elsj.jp
〒113-0023
東京都文京区向丘1-5-2
開拓社内
電話（03）5842-8900